

学校教育目標		社会で通用する基礎・基本を磨き、 よりよい自分・学校・社会を目指す生徒の育成										令和4年9月6日						
a ミッション 【地域・社会における 本校の使命・存在意義】		地域に誇れる学校づくり ～ 地域からの期待に応え、期待を超える学校づくりを ～				a ビジョン 【実現しようとする 本校の将来像】		○オール因島南（学校・家庭・地域）で、連携・協働し、生徒を育む学校 ○学校・地域（ふるさと）を誇り、自分の生き方を見つめ直すことに繋げる学校 ○社会の変化に対応し、向上心を持ち、思いを実行に移せる学校				尾道市立因島南中学校						
評価計画												自己評価			学校関係者評価			改善計画
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案				
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ						
育成する資質・能力 「基礎・基本の力」「思考力・表現力・対応力」「高い志とチャレンジ精神」	確かな学力の育成	本質的な問いを工夫し、授業をファシリテートできる教職員の育成。	【授業改善の推進】 ○授業のめあて、振り返りとゴールイメージを持ち、授業をファシリテートできる教職員の育成。 ○学習課題（ミッション）として本質的な問いを工夫し、生徒の意欲や探究心を高め、表現力を育成する。 ○タブレットと電子黒板を活用した授業づくりの推進 ○これらを活用した授業スタイルの確立	教師アンケート めあて・ミッションを常に提示 毎時間の振り返りシートの実施 週1回の電子黒板・大型ディスプレイの活用	100%	96.3%		96.3%	B	教師アンケートの結果から、めあて・ミッションを常に提示し、毎授業の振り返りの実施が本校の授業スタイルとして定着しつつある。4月は電子黒板・大型ディスプレイを使いきれないことやミッションを提示できていないことがあった。	○		・“できること”の凡事徹底を!! 全教職員で共通理解する機会を増やすこと。 ・電子黒板や大型のディスプレイをどう使っているのか校内で職員同士の交流があればいいと思います。振り返りの定着は本当に素晴らしいことです。有効に活用してください。 ・めあての習慣化が授業内容の理解につながります。	・因島南中学校の授業スタイルが確立し、そのスタイルが定着しつつある。今後は振り返りを活用することで前時と本時をつなぐことや、電子黒板や大型ディスプレイを有効に活用できるように研修を進めていく。				
			生徒アンケートQ1～10「〇〇の授業は、「できた」「わかった」と感じる割合がある。」と答えた生徒の割合（全教科平均）【7月・11月実施】	85%	80.0%		94.1%	B	一昨年度から生徒が意欲的に授業の見通しをもって取り組めるような学習課題（ミッション）を設定している。6月には授業交流を通してお互いの授業を見ることができた。10月24日の授業研究に向けて、ミッションの工夫やタブレット・電子黒板等を効果的に利用して日々授業改善に取り組む。	○		・教師のやっているつもりが生徒には届いていないことが多いものです。南中タイムなどの意識づけを!! ・提示している学習課題についての生徒の受け止めはどうなのでしょう。生徒の「できた」「わかった」の思いをできるだけその場でつかむことができて評価できると思いますね。	・南中タイムを学習の定着度の形成評価としての授業改善に生かしたり、宿題を徹底する手段の一つであることを全教職員が意識したりすることで、より効果的に活用していく。 ・ミッションの工夫をすることで生徒の意欲を高め、生徒が「できた」「わかった」と考える授業作りを進める。					
		「社会で通用する基礎・基本」を身につけ、活かすことができる生徒の育成。	【基礎学力の定着】 ○単元テストの実施 ○「学びのサイクル」の充実・発展 ・授業と家庭学習と南中タイムと試験を連動させ、個別指導に丁寧に取り組む。 ○家庭学習習慣の定着 ・委員会による課題提出の取組 ・タブレットとクラスルームの活用	自主学習評価シートの週1回以上の活用	80%	18.9%		23.6%	D	主体的に学びに取り組む態度を見とる目的で「自主学習評価シート」を活用しているが、現状ではシートをすることが目的となっている。自主学習評価シートを活用した生徒の主体的な学習に取り組む態度の評価の見とり方について研修を重ね、活用を促していく。	○		・なぜ達成度が低いのかということも分析が必要ですね。 ・達成度を上げるための具体的な取組を示してほしい。 ・観点3の評価資料を新たな指標を作ってストックしていくには努力がかりすぎるのではないかと。	・主体的に学びに取り組む態度を見とる研修を9月と12月の2回行う。毎週の「南中タイム」の中で「自主学習評価シート」を活用することで、毎週の自学の取組を評価し、学習を調整する力を育成する。				
				単元末に単元テストの実施	100%	100.0%		100.0%	A	日頃から学力が定着しているかどうかを評価し、授業改善にもつなげる。今後も単元ごとのテストを実施していく。	○		・定期テストも含めて、評価の工夫から授業時数の確保に留意を!! ・授業改善だけでなく、課題について早い段階でのフォローにつながると思います。	・南中タイムや単元ごとのテストが自分の学びを振り返り、自分の学習を調整する機会となるように共通認識のもと全教職員で取り組む。				
				調査問題の全国の正答率以上 1年生：標準学力調査4月 2年生：標準学力調査4月 3年生：全国学力・学習状況調査5月	100%	96.4%		96.4%	B	標準学力調査（1、2年）、全国学力学習状況調査（3年）の調査結果より、全国平均と比べると、1年生は105.8%、2年生は96.9%、3年生は89.8%であった。	○		・数値の定時のみになっていますが、この数値から想定できる課題は何でしょうか。 ・学年による学力差はあると思いますが、学年が上がるごとに数値が上がるように取り組んでほしい。 ・学年が進むごとにデータが落ちている原因を分析してほしいと思います。	・2年生、3年生は国語と数学の活用問題の全国との差が学年が上がることに悪くなっている。誤答分析を進めたうえで、どうしてその間違いが起これたかを把握し、その間違いが起これない授業改善を進める。				
	学校・地域（ふるさと）を誇り、自分の生き方を見つめ直すことができる生徒の育成。	【ふるさと学の推進】 ○各教科、道徳、特別活動と総合的な学習の時間「ふるさと学」を関連させる。 ○学んだことを積極的に発信し、自己表現する意欲や力を高める。 ○南中タイムの表現活動の時間設定	生徒アンケートQ31「自分達の学んだことを人生や社会に生かそうと思う」生徒の割合【7月・11月実施】	95%	90.0%		94.7%	B	昨年度の生徒アンケートではこの項目は67%であり、肯定的な生徒の回答の割合は大きく向上した。生徒会主催のボランティア活動や防災教室、防犯教室、道徳、総合的な学習の時間「ふるさと学」を通してよりよい生活・学校・地域・社会を目指す指導が、学んだことを発信する意欲につながったと考える。	○		・先輩から後輩への気持ちを含めた学校の伝統や文化づくりを1学期の早い時期に取り入れた方が…。 ・全体的にはいい傾向だと思います。これからも取り組みを継続発展させてください。分析するときに学年や内容ごとの分析もできる範囲であれば改善につながっていくと思います。 ・昨年度67%の項目の目標値を95%に設定した理由はこういったことが。この項目は非常に重要だと思います。	・コロナ禍で取り組むことができなかった行事や生徒会の取組、部活動を3年生を中心に実施していくことで、学校の伝統や文化を引き継がせる。 ・学習発表会でふるさと学で学んだ事を発信する機会を作ること、さらによりよい生活・学校・地域・社会を目指す指導につなげていく。					
	豊かな心の育成	常に向上心を持ち、実行できる生徒の育成。	【向上心・実行力の育成】 ○「特別な教科 道徳」の充実 『プラスワン作成・助言→取り組み・実践→自己評価・他者評価→反省・改善→新たなプラスワン作成』のサイクルの定着と充実に向けた指導を進める。 ○教材ごとに教材吟味シートで吟味を重ね、生徒実態を踏まえた道徳の授業づくりを進める。	毎月の「重点項目を守って生活している」生徒アンケート集計【毎月末実施】	90%	86.4%		96.0%	B	毎月の重点項目「一点突破・全面展開」を、生徒通信および各教室に掲示して取組を進めた。生徒個人の目標「プラスワン」のサイクルがこの重点項目にも関連していると考えられる。 『プラスワン作成・助言→取り組み・実践→自己評価・他者評価→反省・改善→新たなプラスワン作成』のサイクルの定着の指導を進めた。	○		・好事例を早期に全教職員に紹介できる校内体制を!! マンパワーをチーム因島南中に…。 ・新たなプラスワンを作成する際、「生徒の意見も参考にし重点目標を設定」することはいいことだと思います。この内容が広く生徒に周知できるといいと思います。	・2学期も生徒個人の目標「プラスワン」のサイクルと重点項目を関連付けさせることで、重点項目への意識付けを行い、全教職員で同じ方向の指導を進める。行事や部活動等にも関連付けることで生徒個人の目標「プラスワン」の取組を充実させ、向上心を育み実行に移せるように指導する。				
			生徒アンケートQ23「みんなで何かに取り組み、やって良かったと感じることがある」と捉えている生徒の割合【7月11月実施】	90%	88.0%		97.8%	B	道徳の教材を生徒実態を踏まえ吟味し、授業作りを進めた。今年度は育んできた道徳的心情を発揮する場面（体育大会、部活動、生徒ボランティア）が増えたことが生徒アンケートの割合を高めた要因であると考えられる。	○		・場面があっただけでは、肯定的評価は高まらないと思います。教職員の良いかかわりや仕掛けがあったことだと思います。これからの良いかかわりをもってやってほしいと思います。	・道徳の教材を生徒実態を踏まえ吟味し、また、行事等を考えながら授業作りを進める。道徳的心情を発揮する場面（学習発表会、部活動、生徒ボランティア）を増やす事はもちろん、日頃の生徒の思いや考えに対して、全教職員で良いかかわりをもてるように努める。					
		生活習慣の改善ときめ細やかな見取りと対応による不登校生徒の減少	【不登校の未然防止】 ○生徒理解・学級への帰属意識を高める集団づくりの推進 ・面談、アセス活用、学級経営の充実 ○不登校生徒への支援の充実 ・教育相談室生徒への計画的な支援 ・家庭連携の充実と、SCやSSWと連携した取組を進める。 ○全職員・全生徒の全員面接の実施	アセスの結果「友人サポート」と「教師サポート」の因子50以上の生徒の割合【7月11月実施】	70%	71.4%		102%	A	生徒全員面接を実施し、体育大会を通じて集団づくりを進めることができた。2学期も、生徒全員面接を計画的に実施し、生徒理解を推進する。学校行事等を通して、「居場所づくり…づくり」を推進する。	○		・アセスの結果と行事等の関連について因果関係が分かりません。 ・計画的な全員面接ができていることはいいことだと思います。日々のちょっとしたかかわりや対話でのつながりでさらに掘り下げることができると思います。	・全教職員による「絆面接」や学年部職員による生徒全員面接を2学期も実施する。これらをきかけとして、日常生活における生徒とのつながりを更に増やし、強化していく。				
				新たな不登校生徒を出さない。（昨年度13人）昨年度不登校生徒のうち好ましい変化が見られるようになった生徒数の増加【毎月集計】	100%	25.0%		25.0%	D	達成度が低いのは、目標値を高設定したことと、昨年度と本年度の同月の欠席日数を比較したためと考えられる。取組としては、SCやSSWと連携し、家庭訪問を行った。教育相談室の担当者を中心に配置され、きめ細やかな支援を行うことができた。2学期からは、昨年度コロナ回避のため欠席が多かった生徒を中心に、家庭訪問等の早期対応を進める。	○		・基本的な生活習慣（早寝早起き・ゲーム時間等）の実態調査からも課題解決の方策が出てくるかも…。社会全体として人間関係づくりが困難な状況だと思います。とにかく個々によって状況は異なるので、それぞれの繋がりを持っておいてほしいです。	・友人の良い面に気づこうとする視点を身に付けさせるため、それをSHRで紹介する取組を行い、互いに認め合う環境づくりを進めていく。 ・生徒の生活習慣の実態把握を生徒会の各種委員会と連携して行う。 ・7月末の新たな不登校4名の支援を進めるとともに、未然防止に努める。				
魅力ある学校づくりと働き方改革の推進	働き方改革の意識を持ち、個々の教職員が業務改善に取り組むことで生徒が、生き生きと生活を送ることができる学校づくり	【働き方改革の推進】 ○働き方改革の意識向上 「自分も起点」という位置に立ち、協働して取り組む教職員組織の育成。 ○超過勤務時間の削減 ○退校時刻の設定と30分前の声掛け	働き方改革アンケート肯定的評価全項目の肯定的評価平均80%以上【毎月実施】【市：6月・11月実施】	80%	65.2%		81.5%	B	達成度は80%を超えているが、達成値65.2%は低く、アンケート10項目すべてが下がったことを厳しく受け止め、・勝因の心身が健康で充実感をもって働けるように改革を進める。	○		・アンケート数値以上の課題として受け止めて欲しい。 ・生徒と向き合う時間の確保は大切なことだと思いますが、向き合うとはどんな時間や場面なのかを話し合ってみることでもいいですね。	・地域や保護者との信頼関係の構築につとめ、自信をもって職務を果たし、充実感を感じることができる職場づくりに努める。 ・風通しの良い職場づくりに努め、職員の自主性を引き出す。					
		水曜日の定時退校日の実施	80%	39.1%		48.9%	D	18時退校を設定しているが、月火木金にできない会議や仕事に取り組むことで実施率は低かった。	○		・週1回の実施は今後も努力していく必要がありますね。	・当日になってスケジュールを確認していたのでは実施は難しい。会議や研修は入れず、実施を徹底する。						
		時間外勤務月4.5時間以下を6カ月以上実施	80%															

【自己評価 評価】
 A：100≧（目標達成）
 B：80≧（ほぼ達成）＜100
 C：60≧（もう少し）＜80
 D：（できていない）＜60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。　　○：自己評価は適正でない。　　ハ：わからない。